



通信の力



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL : <http://lets.some.jp>
E-mail : lets@some.jp

平成30年7月

平成30年度うるわしの桜井をつくる会総会

第8回総会を、6月10日(日)13時から桜井市立図書館で開催しました。

堀井会長から、「来年は元号が変わる節目の年になる。AI(人工知能)やIoT(すべてのものがインターネットにつながる)などの大波が我々の生活にも入り込んでくる。新しい時代に相応しい発想で、取り組むことが必要。当会は桜井を訪れたいまち、住みたいところにしようと、桜井で元気に活動している市民の結節点機能を果たし、行政と協働して成果を挙げようと結成され8年目を迎えた。

この間、会員の皆様方の積極的な取り組みにより、産
廃、環境、景観、教育、歴史、福祉、広報、協働、桜井記
紀万葉プロジェクトなど各分野で大きな成果を挙げること
が出来た。これらの松明をさらにこれから、次なる世代へ
と引き継いで行きたい。―との挨拶がありました。

続き、浅川議長の下、総会の審議が進められ、すべての議案が承認されました。



堀井会長

出席者からエルト桜井の市民活動交流拠点について【市民活動交流拠点は、昨年11月末から休館になっている。すでに6か月以上経過しているが、まだ工事が始まっていない。工事が遅れるのであれば、この間利用できるように配慮すべきではないか。現状を知りたい。】の意見が出され、事務局より、【当会からは改修案の早期提示や改修内容についての要望等は申し入れている。工事の工程についてはタッチしていない。完成は平成31年4月と聞いている。市はエルトの構造物の強度、配管、回線等の事前調査にあたっているとのことである】と状況を伝えた。

当会の「桜井市の自然環境や伝統文化を再認識し、みがき育てて、新しい生活文化と資産を次の世代に引き継ぐ」、「国の始まり桜井にふさわしい、まちづくりを市民みんなで推進し、積極的な提言や働きかけを継続的に行い、郷土の未来に貢献する」という活動方針に沿い、改元という歴史的な大転換の年を迎え新しい時代に貢献できる体制づくりを目指していきたくと考えています。

なお、エルト改修工事のため、定例の事務局会議は船谷氏のご厚意により、氏の事務所（桜井市桜井821・本町通り）を借りて、毎週金曜日10～12時（第3金曜日は17時30分～）に開催しています。気軽にお立ち寄りください。（高瀬安男）

桜井に宮をおいた天皇

総会後の公開講演会での奈良図書情報館長 千田稔先生の講演要旨を紹介します。

【崇神天皇】

神武天皇は初代の天皇であり、神武天皇から開化天皇まで『日本書紀』や『古事記』でも名前だけで仕事の記録がなく欠史八代といわれている。初代天皇は次に現れた崇神天皇と二人いることになる。あえて言えばこれは別の勢力があり、この勢力に代わって崇神天皇が桜井に新しく現れたと考えられる。箸墓はいろんな名前が付けられており築造は、3世紀半ばころ卑弥呼が出てきた時期に近く、邪馬台国の卑弥呼と関連した墓であることは間違いない。大和王権発祥の地ということで、これは桜井市にとって有利で、三輪山の地域は世界遺産としての価値がある。



千田稔先生

『日本書紀』では崇神天皇のことをミマキイリヒコイニエノスメラミコトといわれており、ミマキとは三輪山のことで、イリとはイリ王朝のことで、よそから来たという意味で欠史八代のあと新しくやってきたということであろう。

崇神天皇十年記には箸墓のことが書いてあるが、女王卑弥呼がどういう形で現れたかについては、九州説や大和説等いろいろあるがいくら発掘してもわからない。単純に考えるべきで、卑弥呼は神がかり的な人であり、自分が神として近づける場所に自分を置いてほしいと、希望を出し三輪山が選ばれた。ここが倭の国首都となり、出雲の大物主も三輪山に祀られており、こんな場所は北九州や岡山をはじめ日本中どこを探しても三輪山以外のどこにもない。邪馬台国は三輪山の周辺にあったと結論づけるべきである。

崇神天皇は『日本書紀』によると、大変まじめな人で、自分の代になってから病気や災害が起こる、自分に徳があるかどうか天皇として大事なことであるが、どうしたらうまくいくかと大いに悩んだ。現在でも大臣が辞職するとき、不徳の致すことであるとよく言うが徳が重視されていた。そこへ大物主の子供のオオタタネコが来ておさまった。

オオタとは朝鮮系統の渡来の遺跡のことで、5世紀の後半、いまの泉北ニュータウンに須恵器の集団がいて、その中にオオタタネコがいたので呼んできた。

卑弥呼自身が持っていた宗教的能力は、鬼の神をまつことで中国の道教的宗教で、鬼神とはご先祖のことで、これを祀るのにもっとも適当なのは三輪山の周辺であった。(中略)

これまで述べてきたように三輪山周辺は歴史的にとっても大事なところであり、〔三輪山を世界遺産にという運動〕を始めてもらいたい。掘らないとわからないというのは遺産ではなく、目に見えるものが遺産であり、遠くから見ても形もきれいだし、ここで生まれた大和王権が連綿として、今日の日本が続いており、これほど大事な桜井が何故三輪山を世界遺産にしようといってこなかったのか不思議である。桜井が重要であり桜井が先にあっての飛鳥であるのに、飛鳥に大量の国費が投入されたのは、狭い場所だから多くの貴重なものが密集しており、日本のふるさとは飛鳥だという、今風の政治用語でいうイメージ操作があったようである。

世界遺産にするためには多くのハードルがあり、国や県も三輪山に注目すべきであるとともに市役所の方々も努力し、さらに市民全体に世界遺産にするという気持ちが必要である。

(要約 事務局)

*講演内容の全文は当会のホームページで紹介しています。URL : <http://lets.some.jp>

桜井本町通・周辺まちづくり ～一歩ずつ、夢が実現～

私は本町通商店街で生まれ、朝から晩まで毎日賑わいに包まれて育ちました。18歳からは故郷を離れ進学、そして就職。40年の歳月を経て退職間近になり、実家に戻ると、昔の賑わいはなく、人通りも少ない文字通りシャッター商店街。全国あちこちによくみかける光景でした。ちょうど、地元の商店主や住民でまちづくり協議会が立ち上がっていました。協議会主催の住民会議への参加がきっかけとなり、私の郷土愛が目覚めました。

以来、6年の歳月を経て、数十回を重ね、皆で積み上げたワークショップから生まれたアイデア、夢が実現しつつあります。うるわしの会においても機会を得てワークショップを実施しました。

本町通商店街は旧伊勢街道、昨年日本遺産に指定された竹内街道、横大路に繋がる古代からの道沿いにあります。江戸時代は宿場町、明治からは木材産業の集積地として繁栄、明治、大正、昭和の歴史的な建造物が残り、街並みを形成しています。こうした歴史的資源を活かしてまずは、昭和初期を思い起こす町屋風コミュニティカフェ、大正レトロのレストラン、明治建築の古民家町宿の誕生です。

さくらまちこーひーてん

第1弾は昨年4月にオープンした「**櫻町珈琲店**」です。旧青果店をもとものの町家様式に修景し、多世代が交流できる居場所機能を有する町家カフェとして活用できる拠点として整備。コーヒー歴20年の近隣の松村夫妻に運営をしてもらい、毎日40人近い来店で近隣住民の憩いの場として親しまれる存在になっています。

さくらまちざん

第2弾は今年4月にオープンした「**ル・フルドヌマン 櫻町吟**」です。大正期に創建された銀行支店跡を修復、外観はレンガブロックの大正ロマン溢れるファザードを復元。内部は二階内側回廊のある吹き抜け空間を活かし、木材の街のシンボルとなる近代建築空間で美味しい料理と交流の場を企図。和の森田オーナーシェフとフレンチの土川シェフがコラボしたカジュワル・フレンチレストランとしてスタート。ランチタイムは近隣のご婦人層で賑わい、夜は職域や団体の会合、懇親会やディナー客に新しい交流の場として活用されています。

くら やどおうりんてい

第3弾は今年夏に開業予定の「**蔵の宿 櫻林亭**」です。明治時代より受け継がれた材木商富田氏の迎賓邸宅を補修。四季折々の風情を愉しめる日本庭園、本格的な茶室、二つの大きな蔵、回廊のある座敷など数寄屋造りの佇まいが残されています。明治・大正時代の邸宅の美しさや魅力を感じていただくこと。また、蔵には桧の香りで包まれた浴室や寝室を設え、蔵の宿と呼べる異次元を愉しんでいただくこと。これらを



ル・フルドヌマン櫻町吟のオープニング

通じて町家保存の意義を見つめ直し、日本の美意識と精神に気づくことが出来る空間を提供しています。

この地を訪れる遠来の方や外国の方に櫻林亭に宿泊いただき、夜は櫻町吟でディナー、朝は櫻町珈琲店でモーニングを提供できるおもてなしの構えが整います。これを起点に第4弾、第5弾と進め、賑わいの輪を拡げていきたいと考えています。そのためには、官・民・産・学・金連携のもと、関わるすべての皆様のご指導、ご支援、協力なくしては進めません。まだ始まったばかりです。引き続き宜しくお願い申し上げます。

(本会常任理事 岡本 健)

日本書紀講座 継体天皇大和に凱旋す

講 師 森田 克行 氏(今城塚古代歴史館特別館長)

日 時 7月15日(火)13:30~15:30

場 所 桜井市立図書館 (要予約)

「桜井に宮をおいた天皇」で千田奈良図書情報館長に講演を頂きましたが、その一人である継体天皇については、時間の関係で本講座に期待するとされました。

桜井市池ノ内周辺に玉穂宮(たまほのみや)を造営された継体天皇は、若狭〜びわ湖北部地域から淀川水系〜瀬戸内地域の支配をして大和にやってきたと言われています。郷土の歴史をより深く知るために、多数ご参加ください。

問い合わせ先 桜井市観光協会 TEL: 0744-42-7530



万葉歌碑原書写真パネルの展示

6月13日から22日まで、桜井市大神神社にて桜井記紀万葉プロジェクト推進協議会による記紀万葉歌碑の写真パネル展が開催されました。

当市内には川端康成や棟方志功らの揮毫(きこう)による万葉歌碑が64基あり、内13点が展示され、多くの来場者で賑わいました。



お知らせ

●図書館友の会

7月の読書会は、「砂漠の思想」安部公房です。

衝撃作『砂の女』『他人の顔』を続けて刊行した時点で、自身の初期思考をエッセイの形で発表したものを精選し、全エッセイとして刊行した大著。

日 時 7月24日(火)13:30から

場 所 コミュニティーカレッジ 知の森

近鉄大福駅から北西へ100m

問い合わせ先 浅川 肇 TEL: 090-1961-6345

友の会会員以外の参加も歓迎します。



【編集後記】 うるわし通信の紙面が、多くの方々の執筆で賑わっている。東アジア情勢の大きな変化と、憲法カフェや石牟礼道子氏の文筆活動、障害者の芸術文化活動・投稿等々で、『地球的規模で考え、地域で行動する』ためには、今何を大切にしていかなければならないのか。千田稔氏は、桜井市は世界遺産登録を目指そうと『檉』を飛ばされている中(本会HPでの千田氏の総会公開講座参照)で、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産登録の勧告を受けたとのニュースが入って来た。

(編集子 K)

うるわし通信発行人
高瀬 安男
TEL: 090-1678-9157